黒潮町の文化財 No.23

『清岸山東光院松山寺跡』

国道56号の井の岬トンネルの西側入り口から岬へ通じる町道わきの山道を10分ほど登ると、松山寺跡に着きます。

跡地はかなり広く、目の前には海が広がっており、木々の間からは遠く足摺方面まで見渡すことができます。

跡地には、中興の碑や歌碑があり、中興の歴代僧都の無縫塔（卵塔）には辞世の句が刻まれています。

※平成2（1990）年旧大方町文化財指定。

■松山寺

総本山は京都東山智積院、宗派は真言宗、本尊は薬師如来ならびに地蔵菩薩です。

開基は空海とされており、本尊の地蔵菩薩は行基の作と伝えられています。

徳川時代には、お馬廻り三百石権大僧都の格式であり、境内には、今も石垣の残る山門や龍権堂（鐘楼）の松とともに伽藍がそびえ立ち、夕日に映える寺山は、坂東八景のひとつであったとの記録が残されています。海に沈む夕日に映える寺はさぞ荘厳であったと想像されます。

寺は明治初年ごろ、廃仏棄釈の政策により廃寺となり、住職は山下に降って真磯のそばに小堂を営むだけになりました。

当時の僧侶・8代目文瑞は高徳ある名僧でしたが、時代の流れにはあがらえず、9代目文海に至って僧籍は絶え、文海の子・嘉太郎は神職に転じました。

その後大正年間になって、四国37番札所である窪川の岩本寺から、弟子僧の太亮や山本恵教などがきて再興を図りましたが、なかなか容易にはかないませんでした。

その後も久保清盛亮、泉恵雲などが志を継いで何度も再興に努めたものの、松山寺としての再興は規律上不能の点があって県知事の認可を得ることができませんでした。

■観音寺

昭和2（1927）年、新潟県から弘誓寺門徒・観音寺（本尊は薬師如来）を真磯のそばに移転し、はじめて公称寺院となりました。

その後、昭和15（1940）年、伊田地区の天ヶ谷に移転して現在に至っています。

このような経過によって、現在本尊は元の松山寺にあった地蔵菩薩と、新潟県から迎え移した薬師如来との2体を併せ安置してあります。

ちなみに、もともと行基は三論宗に属していたので寺は三論宗でしたが、9代目文海のころから真言宗に編入されたといわれています。

大正地検に見える松山寺関係の地所が18カ所にも及んでいるところからすると、当時寺は相当隆盛であったことがうかがわれます。

寺には紀貫之の書といわれる「月字の額」が伝承されており、現在は区長により厳重に管理されています。

観音寺は、国道56号の伊田トンネルの西入り口のそばにあり、掛川新吉（昨年8月広報で紹介）の墓碑をはじめ、えい歯の碑（町文化財に指定）などたくさんの墓碑があります。各墓碑の前には手づくりの籠が置かれ、地域住民が大切にしている様子がうかがわれます。

○このシリーズに関するお問い合わせ　教育委員会 文化振興係（大方あかつき館内）☎43－2110（直通）